

## 不祥事防止研修会実施報告（第11回）

学 校 名	三次市立田幸小学校
研修テーマ	いじめ問題への取組について
研修担当者	研究主任 松田 紳吾
研修日時	令和5年1月10日（火）13:45～14:00
参加人数	9名
実施形態	講義・協議
使用資料等	○生徒指導提要 令和4年12月 文部科学省
研修の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 資料について3つのグループで気づきを交流する。</li> <li>② 各グループの意見を全体で交流する。</li> <li>③ 各自で振り返りを書く。</li> </ul>
研修を終えての 気づき等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめはいつでもどこでも起こる可能性のある集団の問題行動と考え、未然防止や早期発見、解決のためには、生徒指導の三機能を生かした日常的な取組を計画的に進めることが重要だと思う。</li> <li>○ 児童間だけでの中でのいじめは本当に見つけにくいと思うので、些細な行動や違和感をスルーしないことが大切だと感じた。</li> <li>○ いじめが起こる前に学級づくりとして、認め合い、助け合えるような学級をめざし、児童一人一人の自己肯定感が高まるようがんばっていることやよいところを認め、声をかけるようにしたい。</li> <li>○ いじめは未然防止が一番だが、養護教諭としては早期発見ができる自分でありたいと思うし、助けてと言ってもらえる存在であるよう、日頃から児童と接していきたい。</li> <li>○ 文科省があげている不適切な指導の例と照らし合わせ、自身の指導を振り返っていきたい。</li> <li>○ 日常生活における児童生徒の人間関係や個々の様子など、気づいたことや気になったことは、小さなことでも職員で共有しておくことが未然防止につながると思った。</li> <li>○ 今回の研修で、今まであまり視点が向けられていなかった部分も注目するようになっていくと感じた。一番心に傷を負わないのは未然防止だと思うので、よりよい関係づくりができる学級経営や職場の環境づくりが大切だと感じた。</li> <li>○ いじめは、「起こった後ではなく、起こる前に」どう指導していくかが図や短文で分かりやすく示されていたので、これからの生徒指導体制について、捉えやすいと思った。</li> <li>○ SNSの発達、コロナ禍など、時代の変化に合わせた指導の在り方も必要であると感じた。</li> </ul>